

発行所

東京都江東区
越中島3-3-1

東京都立第三商業
高等学校同窓会

編集 同窓会事務局
電話 (3641)0380

三商同窓会報



No.42



ご挨拶

学校長 青木孝雄

さわやかな夏が続く今日この頃、卒業生の皆様には、益々ご健勝にて活躍のこととお喜び申し上げます。

日頃より母校の教育活動にご支援・ご協力頂きまして、大変有り難く心より厚く御礼申し上げます。

平成14年度は終了し、平成15年度がスタートしました。今年度は新しい学習指導要領の基に教育課程を編成し、1年生が取り組んでいます。今年度は更に、商業科と会計科を発展的に統合し、三商は商業科のみの商業高校として生まれ変わりました。1年は商業科のみで、2、3年は商業科と会計科は存続します。平成17年度からは全学年商業科だけの商業高校になります。

平成14年6月に都立高校新配置計画が教育委員会から発表になりました。商業高校について述べますと、19校の商業高校は、9校を残して改革の対象となりました。第二商業高校と向島商業高校はそれぞれ工業高校と合併して、産業高校となります。台東商業高校、四谷商業高校は周辺

の高校の定時制課程を吸収し、昼夜間定時制高校と変わります。赤坂高校と市ヶ谷商業高校が統合し新しい商業高校になります。第一次高校改革で発表になった、池袋商業高校と牛込商業高校は、豊島地区商業高校(仮称)、上野忍岡高校は忍岡高校と統合し新しい高校に、桜水商業高校は、永福高校と統合、深川商業は、

チャレンジスクール高校になります。大変大きな改革の波が商業高校を飲み込みました。芝商業高校と、第一商業高校は、リーディングコマース

ハイスクールという形で、中高連携、高大連携を図り、より高度な検定を目指し、かつ大学との連携を図りながら、進学を拡大する高校を計画しています。その中で三商は改革から外れました。従って三商は自ら学校を改革しなければ、生き残れません。商業科のみの商業高校に変身しました。

平成14年度は、本校商業教育を中学生に理解してもらうために、5校の中学校に出張し、出前授業を実施しました。中学校の授業時間を頂き、本校教員が商業の授業を行い、中学生、中学校教員に商業高校を理解していただく企画です。5校から依頼があり、実施し中学生、教員から大変感謝されました。今年度は、出前授業に加えて、本校において、8月

に、丸1日中学生に授業を行う、招待授業を計画しています。ある中学校3年生160名、9時〜2時まで商業科目、普通科目の授業を実施します。この授業によって、商業高校の内容をより深く理解し、商業に興味や関心を持った生徒が、入学してくれたい良いと考えています。また本校生徒には、2、3年生で大学進学を目指す生徒の大学理解のための機会を設定する目的で、大学セミナーを受

講させています。新1年生から新しい学習指導要領の実施に伴い、カリキュラムを大幅に変えました。特に2、3年次における商業選択、総合選択では、学校設定科目を大幅に導入し、生徒の興味・関心に基づいた学習が選べるように教育課程を編成し、自己実現を図っています。

高等学校の教育が大変多様化し、社会や地域のニーズに添えていかなければなりません。今後も様々な改革を展開していきます。

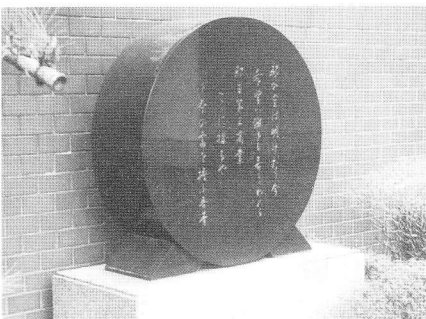
平成15年度三商は無事スタートしました。6月6日体育祭では、T軍、C軍、S軍に分かれて、熱戦を繰り広げました。全力で自軍のために走り、力を出して取り組む姿勢は、三商の伝統であると感動しました。

総合実践室が新しくなり、インターネットが接続され、IT授業の充実が進んでいます。本年度はまた、部活動が活発になり、グラウンドでは、硬式野球部、サッカー部、テニスコートでは、硬式テニス部、軟式テニス部、体育館ではバレーボール、バスケ、ソフトボール、柔道部が頑張っています。

最近の学校の様子を紹介します。是非ご覧ください。

またホームページを平成14年秋より開設しました。アドレスは『www.daisanshogyo-h.metro.tokyo.jp』

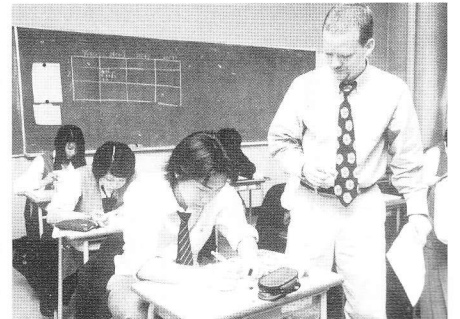
です。三商の近況をご覧下さい。同窓会の皆様方のご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。



改築記念碑
書 12期古暮正雄氏 (旧教員)

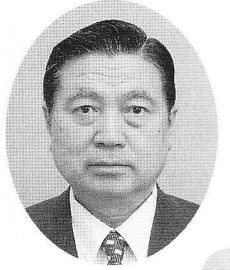


修学旅行



授業風景

いあごわい



会長 木戸 隆吉

よろしく、ご支援ご協力の程、切にお願
い申し上げます。

さて活動状況に入っている前に計報です
が、誠に遺憾乍ら、初代会長岡田一
様、三代会長神谷武志様には二、三年
前に鬼籍に入られ、その偉業と改革に
感謝を申し上げ、謹んで哀悼の意を表
し、ご冥福をお祈り申し上げる次第で
す。次に四代会長十二期の大嶽清様
には、この二年間大役を果たされ、い
ろんな行事を手がけられ、若手役員の育
成に大きな貢献があったものと、感謝
をしております。私は大嶽様のあとを
引き継ぎ、同窓会の良き伝統を守り、
その目的たる、一、公報の発行、二、奨
学援助及び進路指導等に対する助成、
三、各種研修会、見学会及び講習会等
の開催、四、会員名簿の編纂発行、五、
その他必要と認める事業等、を誠心誠
意果たし、重責を担う覚悟でこれに当
たります。まず、一、に關しては、年一
回七月発行、出来得る限りの事業計画
案を盛り込み、多方面の原稿を依頼す
る、二、に關しては、財団法人東京三
商会の財産確保とその運用を生かし、
その資金を、奨学、進路の助成に費し、
三商会で選出された三商同窓会の理
事、評議員の方々に、その適正なる配
分を決定して頂く、三、につきましては、
昨年の総会で、テアラ江東公会堂にお
ける講演会、十五期卒、岡野加穂留様
（前明大学長の「日本、米、世界」と
題しての講演も好評でした。又前回
選挙で当選された、宇田川芳雄、十四
期卒、衆議院議員、当選祝賀会を催し
たり、新年会、校歌祭参加リハール、
慰労反省会等も催しております。又新
たに、都内、近郊の名所、旧蹟を健康
増進のため歩く会として「三商OBウォ
ーキング会」を発足したいと考えておりま
す。引率者は十九期生の中野貞三君で、
現在OBウォーキング会を主催して、百

五十名の会員を擁し、十年近く活躍し
ております。年に二、三回企画し、親
睦を深めたいと思っております。希望さ
れる方は左記申し込んで下さい。

江戸川区南小岩七―三十八―十一

中野 貞三

〒一三三―〇〇五六

TEL 〇三―三六五八―六三四一

FAX 〇三―三六五八―六三四〇

次に来る十月四日(土)には、日比谷
高校内「星陵会館」に於いて校歌祭が
催されます。商業高校では、一商と三
商が参加しています。同窓生の多くの
方々に出演していただき、大いに胸を張
って高らかに校歌と応援歌を、斉唱し
て下さるようお願いしております。応援歌
に自信のない方は、九月二十日(土)午
後五時より、日本教育会館内9F、リ
ンケージルームでリハールを行います
ので、ご参加下さい。尚詳細は、別掲案
内をご覧ください。もう一つ大きな催し
として「三商クラブ交流会を今秋計画
しております。これは三商には「三水
会、木樨会、三商会計人会等の業界を
中心とした集まりと、クラブ活動のOB
会等があります。これらの方々を一堂
に会して、懇親会を企画して、同窓会
の幅を広げたいと思っております。ご案
内は二十五期卒の副会長、鬼澤好男君
が担当いたしますので、その節はよろし
くご協力の程、お願い申し上げます。

四、に關しましては、創立八十周年を
四年後に控え、今から徐々に準備をす
すめているところであり、五、に關
しましては、会員相互の親睦です。い
ろんな事業を企画することが大切であ
ると確信し、理事、評議員の方々と協
議してまいりたいと思っております。次
に、日本経済は未曾有のデフレ不況
にあります。これがため勤労者は職場

にあつては余裕がなくかなりの重任を
うけている現状です。この時期に評議
員をお願い申し上げている訳で、恐
縮ですが評議員会のご案内ハガキには
必ずご記入の上返信下さる様お願い申
し上げます。一期から七十期の卒業生
は各期の評議員から成り立っています。
同窓会の重要事項を、各同期生に伝え
る義務があることを忘れないで下さい。
又同期会を開催されない期は、同窓
会が代つてお手伝いをいたしますから、
遠慮なく申し出て下さい。役員が費用
共々ご支援申し上げます。尚今、社会
問題として「少子高齢化」が叫ばれてい
ます。あと二年もすると高校への入学
者は、激減します。このため生徒数確
保のため、先生方のご苦勞も大変で、
これの勧誘に苦慮されております。大
事なことは、三商の校風を高め、魅力
ある学校に育てることです。その意味
で先生方共々、同窓生の皆様にも感心
をお寄せ頂き、名門三商に相応しい学
校に高めていただくよう、ご協力
の程切にお願い申し上げます。山梨県
にある清里の街を作られた開拓の父
「ポールラッシュ」さんは「一流をめざせ」
「最善を尽せ」を目標に、環境のよい立
派な街づくりに成功しました。今、初
代校長、吉澤徹先生の「リトル・ジェント
ルマン」たれ「五代校長、清田榮一先生の
「ドゥ・ユア・ベスト」の教への声が聞こえ
てくるような気がいたします。終わりに
同窓生皆様の、ご健勝と、ご活躍を
祈り、母校発展に微力ながら尽くした
いと念願し、ごあいさつとします。住所
変更しました

会長退任の挨拶



(十二期) 大嶽 清

前同窓会長 神谷武志氏のあとを
受け継ぎ、四代会長として就任挨拶
を同窓会報にて申し述べました通り、
今後の思索の一つとして、卒業年度
への視野をより広げ、本会組織の更
なる充実と拡大を目的とし努力して
参りました。またこの意を理事、評
議員の各位と相図り、運営協議に専
念して来た次第です。なかんづく任
期中に特に意としたことは、爾後の
運営力の中心を卒業期のすくなくと
も1―3週間に置くことが、肝要と
の所感を大にした次第です。就任承
諾の時点にでもこれ等を強調し、任
期を短縮し最小にして最大の効果を
得ることを目的とした次第です。従
いまして短期にしてバトンを次期に
おくりましたが、やがて迎える創立
八十周年の記念すべき母校の新時代
に対処し、今日までの長期にわたる
役員経験、体験をより以上に活用
し、以って本会の発展に寄与致し度
き所存です。任期中に賜りましたご
激励を感謝申し上げますと共に、本会
発展に一層のご支援ご協力を切にお
願い申し上げ、退任のご挨拶と致し
ます。

現住所 〒二七一―〇〇九五

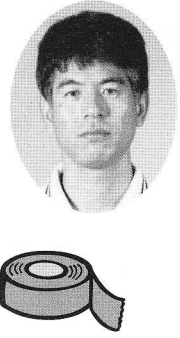
松戸市中矢切五〇九―一

木戸 隆吉

TEL&FAX

〇四七―三六―一九二八―一

たより



三商での九年間

長江 誠

平成六年四月に着任以来、九年間お世話になりありがとうございます。現在は三商に教諭として籍を置いたまま、長期社会体験研修生として都庁の中央卸売市場・事業部・業務課に勤務しています。

着任一年目に三年生の副担任をしました。時々SHRへ行きましたが、欠席・遅刻はゼロ、早めに登校し自習している生徒が大勢いました。元気に挨拶してくれて、私も直ぐに馴染む事ができました。

その後、学年担任、生活指導部、教務部の仕事をさせていただきましたが、部活動はずっと陸上部の顧問でした。少ない部員数ながらよく頑張ってくれて、関東大会に参加できたことは良き思い出として残っています。

夫を凝らした教育課程が展開されていきます。
三商の生徒たちは、さまざまな能力を身につけて今日の厳しい経済状況の中に巣立って行きます。先輩諸氏にはさらなるご厚情を賜ることもあろうかと思いますが、その節にはどうかよろしく願います。



大変お世話になりました

山田 貞子

昭和五十七年六月改築により新校舎となった都立三商の門をくぐり、財団法人 東京三商会の職員となり二十年十ヶ月の永きにわたりお世話になりました。

同窓会の皆様、都立三商の教職員の皆様に心暖かく接していただき、毎日楽しく過ごさせていただきましたこと、心よりお礼申し上げます。新潟県六日町の山寮の閉鎖という寂しさも味わいましたが、あの寮の前にあったピンクの桜が懐かしく目に浮かびます。

学校の周りも高層マンションが建ち、昔と大部様子が変わりましたが、裏の運河を流れる筏・赤い提灯を提げた屋形船・下町の人情は変わらないでしょう。

三商を離れた今、あらためて出会った方々に心より感謝の気持ちを上げるとともに数えきれないほどの思い出を頂き、三商会の職員であっ

たことを誇りに思っています。本当に有りありがとうございます。皆様のご健勝と都立三商のますますの発展をお祈り申し上げます。

同期会

四期会

黒須 康介

四月十二日、丸の内新丸ビル地下「ポール・スター」にて同窓会を開催。十五名が集り、健康にて来年も元氣にて又集る事を約して散会。



4期

第23回 五期の会

平成十四年十一月十四日に、三商五期生の例年の昼食会を、上野池之端にある東天紅で正午から開催しました。この東天紅は五期生の故小泉一兵衛君が興した中華料理店ですから五期生にとっては懐かしい会場でした。そして、昭和十二年に三商を卒業した五期生としては平成十四年は丁度六十五年目に当たる節目の年です。ので出席した諸兄は感ひとしおの気持ちを語り合いました。



5期

当日出席した五期生は十七名、ほかにご夫人など四名でした。その中の長谷川多美子様（五期生故長谷川正三君夫人）からは五期生の会が多大なご寄付を頂いておりまして、そのおかげで五期生の会が年に四回発行しているおたより集の作成が可能になっている次第です。

会場から眺めた不忍池は、右半分が蓮の花に覆われ左半分には静かな水が漂っていて、その向こうには上野の山の森がこんもり茂っていました。われわれに少年時代を想い出させて心をなごやかにしてくれる風景でした。

開会にあたってまず校歌「都の空」を全員が斉唱。そのあと各人が一分間ぐらいずつ近況や人生観などをスピーチしました。スピーチする各位の顔を見つめつつ、スピーチの内容



- 小島利八郎
- (佐野) 小川 正枝
- 西山 輝雄
- 帆足 幸作
- 大門 貞一
- 森 茂男
- 長谷川多美子
- 好川喜久子
- 加納 國雄
- 長谷川 実
- 城川幸太郎
- 須田泰三郎
- 清水 誠一
- 五十嵐幸一郎
- 内田 誠三
- 澤本 重夫
- 好川 榮一
- 吉澤幸一郎
- 佐野 徳三
- 大門 貞子

を聞いていると昔が今に近づいてく
る感じがして、各位の生きる歴史を
想い浮かべることができました。
スピーチの次は乾杯。一同声高く
乾杯を唱えビールのグラスを空けて
から約二時間ぐらい、楽しく飲んで
食べてしゃべりました。

十期会

荻野 文雄

昭和二十七年以来、組織的に運営
してきた十期会は、大正十三年生れ
が数え年八十歳になった平成十五年
を区切りに解散することになった。
最後の例会を五月二十三日(金)正
午、同期古田泰治郎君経営の神田淡
路町の割烹「萬代」で開催した。

荻野が司会し、先ずご逝去された
恩師並に同期生のご冥福を祈って黙
祷。世話人代表木村一雄君の挨拶。
来賓の笹岡恒三先生のご挨拶は、わ
れわれが入学した昭和十二年に東大
を出て三商に奉職され十七年まで在
職。其後大学教授を歴任されたが、
教師生活の思い出は独身でもあった
三商教諭の時期が最も懐かしいとの
ことであった。福田猛君の事務局報
告は清田榮一先生最終募参会を十月
七日(火)に挙行する事など。地元
神田の石川喜一郎君の乾盃音頭で懇
親会へ。同期生全員を対象とした最
後の会合とあって惜別の情もあり、
暫し憂き世を忘れて愉楽のひとつき
を過した。二時半、國定健一郎君の
手締めで散会。

出席者三十四名
飯島武敏、石川喜一郎、石丸豊多
郎、岩佐一男、大森文吉、加島精四

郎、加瀬善太郎、加藤茂、金沢武佑
神谷恭正、木村一雄、國定健一郎
小池善四郎、小島通敬、五島彪、小
西康義、小谷松淳郎、佐々木博夫、
高橋浩、武市武、竹田一郎、田中利
雄、中一、橋本武、福田猛、古川
恵一、古田泰治郎、帆足誠、松下義
雄、森正俊、山口正人、山崎順三、
山田慶蔵、荻野文雄

十期会が五十余年にわたって持続
できたのは、事務局を掌った福田君
の人望と献身的努力による。また創
立者で主柱であった意気(粹)な深
川つ子、故石川保君の存在であった。
両者相補って稀にみる同期会を成
した。



10 期

福田君の発意で機関紙「十期会報」
を合冊して製本し、表題を高橋昇一
先生の名筆で飾った、母校図書室と
同窓会事務局に寄贈した。

「十期会報」が十二年に亘って継
続発行されたのは山崎順三君の熱意
による。またわれわれが活字世代の
人間であり、激動の時代に生きた証
しを記録として残したい想いがあっ
たからである。徴兵最後の年代で大
日本帝国の崩壊を軍隊で体験したこ
と、東京大空襲で被災し家族を失っ
たこと、戦後の混沌とした社会情勢
から青春の活力をもって新しい人生
へ出発したことなど憶い出は尽きな
い。会報によって夫々の人生を知り、
絆を強めることができたのは幸いで
あった。

十期会を閉じるに際して

福田 猛

十期会は、なお定例行事として、
今秋10月の清田先生募参会を残しま
すが、全会員に対する紙上のご挨拶
はこれが最終となりますので、運営
実践の事務局として、一言締め括り
の辞を述べさせていただきます。

当会が組織として事実上発足した
のは、昭和27年(一九五二年)9月
浅草雷門傍の大増に同期生60余名が
参集した時です。其れから今日まで、
半世紀を超える永き間、昭和隆盛期
と言う、社会環境に恵まれたことも
あり、総じて、常時を軸に会員相
互の活発な交流が形成されて参りま
した。その間会が実施した催しは、
定例・臨時を問わず多種多様です。

毎年春の例会は言うに及ばず、30年
余にも及ぶ先師募参会、節目毎の恩
師長寿祝賀会、更に11年に亘る会報
発行等種目を大まかに括りましても
相当な諸活動を記録して来まし
た。加えて、母校同窓会の運営にも
当会選任者が積極的に参画し、その
規約改正・財務改善に大きく寄与し
ました。

然し、一方では加齢に伴い、茲十
年長逝する会員が年一年増加する傾
向にあります。確認した限りで、母
校卒業より現在まで103名の会員が他
界されていますが、其のほぼ半数の
51名は、私が世話人となりました昭
和56年以後の22年間に集中しており
ます。然も此の所重篤者が急増する
兆しさえ観られます。そこで、現会
員の今後の実生活を冷静に勘案した
末、延命に因る竜頭蛇尾の弊を排し、
栄光に輝く中肅然と組織としての十
期会を閉じる事と相成りました。

唯、今なお会の存続を望む方々も
少なくありませんので、更に数年、
非定型な気楽な「同好の会」を毎年
1〜2度開催する心組みでおります。
この会は何ら制約のない集まりとし、
15名前後の参集がある限り継続する
予定です。対象の方々には其の都度
ご連絡申し上げます。

最後に、この機会を利用して、全会
員皆々様に、至って長期に亘り、私
の会の運営実践をお許し下され、協
賛金を始め、多大なご協力・ご支援
を賜りました事に対し、心より御礼
申し上げます。併せて、無能非力の
為、不行届き・非礼の点多々あった
事に対しましては、諸兄のご寛恕を
期待致します。私自身は貴重な体験
をさせて頂き大変幸せに感じており
ます。有難う御座いました。

「十期会報」最終号の
製作を終わって

山崎 順三

平成四年四月に創刊した「十期会
報」が、ここで廃刊と決まり、之の
制作に係わった事で一言述べさせて
戴きます。幸いこの十一年間、健康
を保持することが出来て、全刊の印
刷をわが家のコピー機で印刷出来た
事に大きな満足感を味わいます。年
金受給の時期から常勤の生活から離
れ、気儘な老後生活に入り、その時
期から普及が始まったワープロ機の
使用を学び、「会報」の発行が実現出
来ました。私がこの発行を意図した
一つの因は、当時まだ製録として居
られ、会の例会には欠かさず御出席
を戴いていた、清田先生に読んで戴
き、ご講評を戴く事がありました。当
時折々お目にかかる機会もあり、発
行に就いて色々励ましのお言葉を戴
き、創刊には大層喜んで戴いたお顔
を想い出します。第2考には貴重な
ご投稿で冒頭を飾る事が出来まし
た。読んで戴けたのは、翌年7月に
発行の第6号迄で、第7号には「透
去の記事を掲げ悲しみに暮れました。
第6号の一面には同年5月に「川甚」
で開催の例会出席者の記念写真が掲
げられ、それには先生の外、井上先
生、石川保、高野忠男、松岡直春、
寺尾一夫、高橋三朗、飯田勇の7氏
が見られ、既に幽冥境を異にするの
は悲しい事です。両先生、更に六君
について記したい気持ちに駆られま
すが叶わぬ事を悲しく思い、ここに
皆様と共に御冥福をお祈りします。
次に私がどうしても記したいのは、

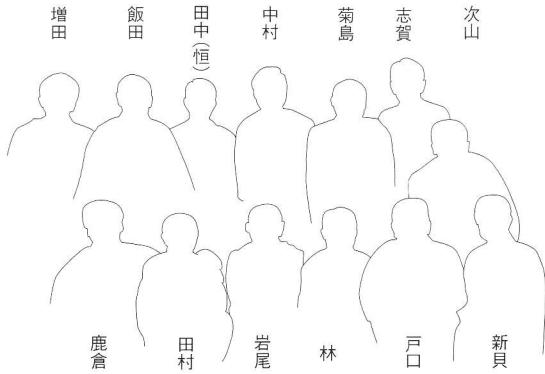
連載を寄せられた諸君の事です。8〜12号、「はぐれ兵挽歌」を寄せられた筒井守君、15〜18号、「私の半生、いすずと共に」の砂川涉君、10〜16号、「佐藤義美先生回想記」の岩佐一男君、一部の批判もありましたが、これらの連載は会報の価値を高めた。私は、この三君に敬意を捧げますが、筒井、砂川両君は既に亡く、痛惜に耐えられません。又、ここで寄稿を戴いた諸君に厚くお礼申し上げます。尚、三月二十八日、お電話で高橋先生の奥様とお話が出来て、当日先生は隣家居住のお嬢様と外出中の事、耳が悪く電話は困難の由ですが、お元気で、「会報を楽しみにしている、皆様に宜しく」との伝言の掲載をお許し戴いた事を、お伝えしておきます。終わりに、この十一年間、協力指導を受けた福田君に敬意と謝意を、更に21号から制作を引き受けて戴いた五島彪君、同時期から原稿蒐集、発送を福田君から受け継いで担当された荻野文雄君、両君に厚く御礼を申し上げます。会員諸君！限られてきた余生をお互いに大事に生きてゆきましょう。

十七期会

飯田 幸男

前回の同窓会報掲載以降の『三商十七期会』の集りを報告する。
①平成十四年四月七日(日) 熱海大月ホテル和風館に於いて恒例の一泊旅行会開催。今回は卒業以来五十二年ぶりに林勝太君が関西から初参加など出席十三名。前年の校歌祭のビデオをみたり、三商時代から近況まで、深夜まで飲み乍ら歓談。再会

を約し翌日朝食後解散。



次山 志賀 菊島 中村 田中恒 飯田 増田
新員 戸口 林 岩尾 田村 鹿倉

②平成十四年十月五日(土) 第十回東京校歌祭、於日比谷公会堂に十五名参加。都心、半日、青春謳歌など年毎に参加者は増えている。終了後、今回は合同慰労反省会(アサヒスポーツドライ有楽町店)を行う。

③平成十四年十一月三十日(土) 午後五時より門前仲町「味川」で『菊島満兄を偲ぶ会』を催す。春の旅行にも元気で参加、明るい話しぶりで周りを楽しくさせて呉れた菊島兄が、八月七日仕事中に倒れ、そのまま鬼籍の人となった。思い出多い門仲での追悼会に十一名の仲間が集った。

④平成十五年四月六日(日) 飛鳥山の花見... だけでは能が無いので同期の大庭兄が館長をしている「紙の博物館」を同兄の説明で見学。参加者十名。解説も上の空、花より団子ならぬ花見酒を堪能。

⑤平成十五年五月二十五日(日) 春の一泊旅行。今年中は中村、次山両兄に幹事を以来、新趣向により「青梅かんぼ保養センター」と近くで開催。今回も関西から遠路はるばる参加の林兄を含めて十名。昨年同様、夜更まで大いに飲み、語り、かつ歌い、この一年の無事を祝う。翌朝食後、霧雨のなか、御嶽山にケープルで向かうグループ、帰京のグループに分かれ、夫々秋の校歌祭での再会を約し散会した。

還暦過ぎたら毎年開催！ 二十六期の三商健児は 生涯青春...

古田 勝一

：何やら長い標題とはなりました。私共昭和三十四年に卒業致しました二十六期は、これまでに同期会を十五回開催して参りました。卒業の翌年、母校の視聴覚教室をお借りして催した第一回以来、しばらくずつと集まりが無かった同期会。しか

しその後、二十一年振りに開いた第二回同期会(百五十名参加)からは西暦奇数年の六月、第三王曜日(二年に一度)に開くと決定致しました。毎回代表幹事を当番制とすること(二組から九組まで順次交代)もすっかり定着し、一九九九年には九組まで順調に一巡致しました。そして「西暦二〇〇〇年(ミレニアム)からは還暦も迎えるので毎年開催しましょうヨ」という事になり、二〇〇〇年以降は一組の幹事から再スタート、会は毎年行われることになりました。



今年も四組の当番で、六月二十一日両国駅近くのザ・ホテルベルグランドにて開催されました。(代表幹事... 古田勝一さん・森保男さん三好清孔さん・鈴木佐一郎さん・鶴岡恒夫さんの協力による)また、当同期会では毎回各クラス別の記念写真やスナップを撮影するのですが、その役を担って下さる杉本光男さんや、そのスナップの各人の顔と名前を照合し、出席者に送付して下さる役の岩瀬和子さんには頭の下がる思いです。因みに昨年の同窓会の校歌祭の写真

もこの両名の働きによるものです。(注：校歌祭には二十六期からは九名参加!)そして、毎年開催の同期会その他に、ゴルフの会に「双六会(杉本光男会長)」という会が結成されており、総勢四十名程のメンバーでコンペを重ね、本年十一月には五十回記念コンペが予定されています。また当期には、「熊三云(仲田元彦会長)」(旧一年一組担任の故・吉住晋作先生の髭ヅラのニックネームから名付けられた)という会も結成されており、東京を見直す」という趣旨の企画・ガイドは志村泰男さんが担当し、東京を歩く会を実施しています。さらに、個人の活動としては竹之内李枝さんが昨年銀座の一等地、大黒屋ギャラリーで絵の個展を開催し、その年の十一月には華の都パリでも個展開催、当地のマスコミにも取り上げられたこと。この様に、還暦を過ぎ益々元氣... 心は常に生涯青春であり続けたいと願っている二十六期生です。

墓 参 会

清田 榮一先生 墓参会

本墓参会は、先生が他界された1993年(平成5年)8月12日の翌年に始まり、毎年、1998年までは祥月の8月に、1999年以後は生誕月の10月に催して来りました。参加者は、10期生を中心に3・9・11・12・20・21各期の有志、9回までの参加延人員は24名余に上ります。当墓参会の趣旨は、第一義に在校中のみならず卒業後も親身の指導・薫



陶を受けた先生の敬慕法要に在る事申すまでもありません。が、其れに加えて、当募参会が是に先行する二つの募参会(56年に及ぶ初代校長吉沢徹先生の、次いで10年に亘る二代校長今村直人先生の募参会)の「継承」として実施されている側面にも着目すべきです。吉沢先生募参会は3期先輩によって始められましたが、途中で清田先生が他期卒業生をも糾合し一つの組織体に纏め上げられました。他方、今村先生募参会は10期生を中核に発足しましたが、それは今村先生長逝の折示された清田先生の強い要望に沿って形成されたものです。従って、当募参会の満願成就こそは、先行する二つの募参会において先生に「誘導」されてきた五々が、其れを乗り越えて「自立」する事をも意味します。実に延べ65年余にも及ぶ此等三商の三募参会は、学卒者の行事としては、其の性格、動員力、存続期間において、他に類を見ない価値有る快挙に違ひ無かろうと想います。此の都立三商の伝統的募参会は、本年10月7日(火曜日)生誕記念日(最終回として完結いたします。よって、既参加者は勿論新規の方々が多数出席されることを期待しております。

場所：市川市立市川霊園
(0473-37-5696)

日時：上記正午
費用：¥4,000 (供花・昼食代)。

尚、詳細は予め書面でご連絡しますので、参加希望者は9月10日迄に下記世話人にお電話下さい。
(練馬区大泉町5-35-3 福田 猛)

03-3922-7777 以上

初代会長

故岡田 一郎氏
追悼の辞

同窓会顧問 大嶽 清

岡田一郎氏は、平成十四年十月十一日急病に依り逝去されました。(八十八才)

会長就任以来長期に亘り、会の運営組織の万全を期すため、並々ならぬ努力を続けられました。勿論事務局は当時教職にありました六期卒の杉原勇太郎氏を忠として、有能なる三商OB教職員を以って構成がなされた組織体制でした。そして二代会長都築健一氏が受け継がれ、更なる努力を重ね今日の基礎を築かれたわけでありました。岡田先輩は、組織作りで秀でた才能ある方と推察して居りましたが、その一端として墨田区老人会の連合会の創立期の会長として、揺ぎなき基盤を完成されました。奇しくも現会長は十期卒の高松一治氏であり、三商ネットの広さに驚いた次第です。又マイカーの運転を晩年(八十才)までされて居り、学校、同窓会の関連行事の帰途は、いつも同

乗させて頂き運動神経の非凡なるを実感させられました。折にふれ一期生時代の話、そして同窓会設立時の思い出を語られました。その時の瞳が若き日の情熱に蘇り、爛漫と輝くその面影が昨日のこの様に思えてなりません。私の人生譜の中に燦然と輝く岡田先輩の死を悼むと共に、永久なるご冥福を祈禱し追悼の辞と致します。 合掌

逝きしこと心暗きや梅雨じめり 青坡

三水会 (東京魚市場)

29期 土方 敏之

三水会は平成12年に会を創立して50周年をむかえました。そこでこの1年を50周年記念行事として行う事にしました。

先ず1月の総会及び新年会を日本橋「とよ田」にて開催し、新年の喜びと50年の回顧に話が弾みました。10月に記念旅行として九州の「ハウステンボス」へ会員夫婦参加のたびを企画しましたが、日程の中の時間がどうしてもあわず取り止めて、10月に築地スエヒロに於いて「会員と会員家族による祝賀会」を催しました。50年も同じ職場、そして会の活動に参加していれば大家族状態になります。この日も大橋秀雄会長夫妻を中心に和やかに歓談したり、持ち歌を歌ったり、おはこの芸を披露したり、50年間の集大成の感がありました。13年1月の総会に於いて、長年会長を努めて頂いた大橋会長に変わり、上柿 博新会長が誕生しました。副

会長に藤枝精治、会計に加藤晋一、幹事長に土方敏之、総務に中村一好、相談役に大橋秀雄が就任しました。11月27、28日にかけて、中央区の「ピラ本栖」へバス旅行。27日に会員と家族をのせて本栖湖へ。もう何回も利用しているので慣れていて、会食後はそれぞれ自由に過ごして頂きました。

28日は昇仙峡を巡り、湯村の常磐ホテルにて昼食をとり帰途につきました。14年に入り、会費の徴収をしていた銀行の破綻により、役員がその任にあたる事になりました。これを機に会員とのコミュニケーションをよりはかる事を誓いました。

9月に加藤晋一さんの叔父さん「加藤 武」さんによる「お話し食事会」を企画致しましたが、加藤さんの都合がつかず「会員夫妻による秋の夜長を楽しむ会」を新富町の「松しま」で開催しました。15年1月の総会にて会長に藤枝精治、副会長に鬼沢好男、会計に加藤晋一、幹事長に土方敏之、総務に中村一好、杉本光治、相談役に大橋秀雄が就任しました。本年は市場の営業が悪く、置かれている環境もはつきりしていない事が多く、心身共に疲労が感じられるので「癒し旅行」を実施します。

7月1日、2日に湯河原の「天野屋」へ会員のみ好きに過ごす旅行をします。三水会は魚河岸に働く人間の集まりで、世辞が言えずこわい人と思われている者集まりです。景気が悪く勢いが今一つですが、これからもよろしくお願い致します。

隅田川・晴海運河の 流れ豊に

本校・旧教員 竹田 一郎 (十期)

去る五月二十三日(金) 毎年恒例の吾が本校十期卒業生の同期会が、神田淡路町の料亭「萬代」(ばんたい)で盛大に挙行された。

「萬代」は同期の太田泰治郎君の経営にかかる都内でも一流の料亭である。

太田君は旧姓・古田。古田君が何故「太田姓」に代り「萬代」を経営するに至ったかは此処では本論から外れるので問題外とする。

ともかく十期会は同志の結束がきわめて固く、例年、五月の第四週末を目標として世話役の一人、福田猛君の献身的な活動で友好的に消息を交歓し同志の近況を報告しあつていて数年前までは、これも同期の山口正人君ゆかりの柴又「川甚」を会場として開催していた。

ここ数年、会場を都心の神田に変更したのであるが、「萬代」の隣には、之も有名な一流の「敷そば」があり極めて繁昌している。

十期会は、この程、あと一年後と二年後に全員が齢い満八十才に達する。大正十三年生れと大正十四年の早生れ組である。

敗戦の年、昭和二十年には丁度、満年齢が二十才に達していて、組織的な「壮丁検査」があり、甲種合格者と第一乙種の合格者が、軍務に服し、陸海軍、或は航空隊の戦士員として遠く支那事変に起因する「太平洋戦争」に従軍し、北は満蒙、南は印度支那半島、南洋群島の各地に転

戦し、名誉ある戦死を遂げた同志も多く、留守家族は何度かの帝都空襲で無事であっても本人は還らず、逆に本人は無事帰還出来たが留守家族は全滅という憂き目を見た例も多々あった事を茲に特筆しておきたいし、年老いた両親の一人息子でも陸海軍は容赦せず、軍役に狩り立てた。筆者には非情だ。

一部、例外を除いて十期生は全員昭和十九年までに壮丁検査を受けている。年老いた両親の一人息子であったかく言う筆者も昭和十九年秋、深川明治第二小学校で、「第一乙種」と判定され、昭和二十年二月五日、山梨県甲府市の「東部六十三部隊」に入隊を命ぜられ、帝国陸軍の文字通り最終末期の現役兵として応召したのである。父親が、甲府まで見送りに来てくれて着用していた国民服を持ち帰ったが、前日の二月四日、母親が新宿駅の列車ホーム迄見送りに来てくれて、この母子は抱き合って駅で最後の別れをした。感極まった筆者の母との今生の別離がここに在り、母は両掌で自分の顔を覆って泣き出したのである。そして留守宅の深川扇橋三丁目十二番地の吾が家は一ヶ月後の東京下町の帝都大空襲で母は戦死、砂町に土地勘のあった父親（汽車製造会社の工場に勤めていた）とはその夜別々に逃げたことであつた。その父親もこの大空襲に起因して病を得て、新潟県妙高山麓の実兄宅で遂に亡くなった。悲しい。

だけ泣かせてくれた。二月四日、新宿駅ホームでの母親との永久別離のシーンも筆者はよく覚えていて。昭和二十年九月、筆者は当時勤務していた天下の大会社「東京海上火災保険KK」に復職し、もともと学校の教師になる事を希望していたから、東京海上に勤務しながら、明治大学専門部文化地理歴史学科の夜間部に合格し同校を首席で卒業し、文部省からの「教員免許状」を拾得し昭和二十二年九月から母校第三商業学校で社会科二級免許状の資格で「地方教官」に叙され三級十号棒の辞令を得て、晴れてがつこうの先生になったのである。その後、法政大学の教職課程で、これも三商の教員を勤め乍ら首席で卒業し、今度は免許状も一級に昇格し昭和三十年三月、定年で退官したのである。

恩師で三商卒業時の担任であつた故清田榮一先生には並々ならぬお世話になり当時の校長今村直人先生にも一方ならぬ恩愛がある。

六十年三月定年退官時の筆者の肩書きは東京都公立学校長、「江東区立第三大島中学校長」であつた。戦後日本は敗戦に依り、学校制度も「六三三制」に移行し、教育基本法も制定されてこんにちに至っている。

昭和二十四年十一月四日、当時の恩師・油井利喜之助先生が媒酌人で愛知県助役の娘を妻に迎えたが筆者の娘の長女は一級建築士、その亭主は家具専門の設計士で全国にマンシオンを建てて歩いているが孫はない。千葉県松戸市に住んでいる。次女は市川市宮久保で世帯を持ち、次女の長男は千葉県立千葉高等学校の二年生。彼女、あたまが良いんだな。乳呑み児の時から面倒見ていたのだが、日本の国の次代は彼に任ずしかない。

もう一人、地元の小学校六年生の女性の孫は英会話と音楽好き。

長孫は自分の適性を自分で見出すであろうと女孫は果して日本婦道を体得出来るのか。

次女の亭主は北海道大学出身の工学士で明治乳業の製品管理に従事、理論構成に専念。残業はヤラナイという猛者であり頼母しい。

此処からやつと遅ればせ乍ら吾が十期会の会報発行の諸般の経緯を物語ろう。

先ずは添付したコピー一枚をご覧頂きたい。吾が十期会同志交流の一助として「会報第一号」が発刊されたのは今を去る（今とは文字通り西暦二〇〇三年）として現在六月、平成の御代も数えて何と十五年目。年号も「昭和から平成へ」遷り代って時代は大きく進展したのである。吾ら大正末年に生れた者たち、あと一、二年のうちに齢い八十才にナンナンとしているのである。十期会報発刊第一号が一九九一年（平成三年）現在二〇〇三年（平成一五年）この間一三年間、十期会報第一号発行の時、吾ら七十才であつた。最終号三十六冊目、出版業界で言う

同先生への想い出が綴られている。同先生は常に羽織・袴姿で出勤された。珍らしいこの女性教師をはじめは音楽か美術の先生かと思つたが津田塾大出身の何と英語の先生とわかつて吃驚したものである。その上、一年C組の副担任を勤められたのである。一Cの担任は数学の千葉義美先生だつた。秋田県人。

その広瀬先生のエピソードで号外が発行され、創刊号は一九九二年、翌平成四年四月に発行人・福田猛製作担当・山崎順三よりの一言が掲載され、今村直人先生を偲ぶ（山口正人）吉沢校長墓参会（小島正義）木版画名流彫師・関岡功夫の錦絵考の一文で飾つた。

戦場の悲惨な、或いは内地の生れ故郷の家族や一族の不運な命運に遭遇した同級生、病魔の犠牲になつた友垣には申し訳なく思うが、戦後、祝福されて世帯を持ち、幸福な家族に恵まれ、明るい雰囲気にも包まれて、子女を海外にも留学させた同級生も少なくない筈である。病魔も克服出来た。海外にも雄飛した。

戦後の世界恒久平和は然し全世界に共通しているとは限らない。局地的な戦斗は続く。

日本に限らず、刻々遷りゆく世界の情勢にどう対処してゆくか、「有事三法」というわかつたような、わからない法案が、平成十五年六月現在、国会で取り沙汰され、通過する形勢にある。賢明な日本国民は曾つての世界第二次大戦のあの悲惨な運命を決して忘れてはいない。間違つても可愛い子女たちに不幸な運命を背負わせたくない。これだけは吾らの後継者たる子女たちの教育に誤まりを侵したくないのである。悲惨な戦時体験を敢えて体験した吾ら十期

生にこれからの不幸はない筈。十期生たちは昭和時代最後の人間的な存在であり、これは貴重な各個人に関する記録である。陸軍所属六十七名、海軍所属十六名、ほかに兵役免除者十六名、計九十九名の詳細な記録の三頁に亘る記載は特筆に値する。誰もが諒解し安堵すると共に戦時下に対処した同級生たちの魂の叫びである。時は昭和二十年、太平洋戦争、あの激烈な戦時下のこの記録の個人に関する集大成は何を物語るか。然も、これらの記録の陰に未来永劫にこの地球上の天地から姿を消してしまつた十期生を思う時の痛恨の極みも亦、感得されなければならぬ。

国家のために、この地球上の未来の幸福のために、生命を捧げた同級生たちの魂の尊厳に思いを馳せなければならぬ。尊厳な事実だ。

昭和二十年八月十五日終戦、そして訪れたこの地球上の平和な、幸福な語らいの日々の有難さを吾々は決して忘れてはならない筈である。

父や母、祖父、兄弟姉妹、各人の親族たちの系累に関する数多い物語、決して涙なくしては語れない。血の繋りほどんなく大切か。

第一次世界大戦は大正時代の初期の出来事。明治の文明開化の時代、東洋の大舞台で日本は飛躍的な発展を遂げ日清、日露の戦乱も切り抜け犠牲者も数多く出たが、日本民族の資質は一躍、アジアの指導的役割を果たすに至つたのである。吾らの父や大先輩たちが文明日本を築いてくれたのである。いま一々、その偉大な業績を茲で云々している暇はないので割愛する。その偉大な業績の血を曳くのが、現代の吾々と、吾々の係累たちであり、それをいま、次代

に引き継ぎつつある。昭和十二年七月七日に中国北京・蘆溝橋事件に始まった日支事変の年、われわれ十期生は“第三商業”に入學。以下、細かいことは省略。昭和十六年十二月、太平洋戦争開戦のその月に吾々は天下の第三商業学校を“繰り上げ三ヶ月”で卒業するに至り十一期生から十七期生迄が多かれ少なかれ、この戦乱に巻き込まれ、昭和二十年八月十五日、漸やく八年戦争が終結して、日本に世界に恒久平和が到来した。

十期生たちは自己紹介しながら交流を深めている。以後、毎年絶ゆることなく年四回発行を別途として二〇〇三年四月発行の第三十六号迄、美事に続刊され、同期生たちの期待の的となり、大きなこころの寄り抱としてエタニティな生命の十期生のさながら湧き出する心の泉となつて、その生命力の根源を形成して来たのである。会報発刊に関する具体的理念は発刊二年目一九九三年四月の第五号に事務局報として報道されている。以後、会報発行の度毎に同期生の充実した生活の内容が紹介されていく心強い。生活をぶつけることが生命力だ。

然し、不幸にして不帰の客として未来水劫にこの地球上から姿を消した盟友の消息を吾らの会報はおろそかにしていない事も特筆すべきである。彼らの魂は決して不滅でない。会報三十三回のうち特筆すべきは一九九三年七月発行の第六号にアンケート回答として掲載された同期生たちの陸軍・海軍に在籍した軍歴と階級、所属した兵種の軍務内容の詳細が、復員した状況と共に報告されている事実

期、吾ら十期生はまだ、この世の中にいなかった。吾らの父母や大先輩たちが身を粉にして祖国日本の体制を維持してくれたからである。昭和十二年七月七日、中国北京・蘆溝橋上の日支の一弾が、その後の世界情勢を左右するに至り、昭和十六年の十二月に“旧制中学最上学年”だった吾らは三ヶ月繰り上げ卒業となり太平洋戦争に突入したのであり、昭和の年号と同じ年令であった我らの一団が、これらの戦火に巻き込まれた前述の事実を銘記しておきたい。「太平洋戦争」が終つてからの吾々は“世界恒久平和”の時代に恵まれて、昭和新憲法・第九条の恩恵もあつてその後の“長寿社会”に恵まれてい

る事を感謝しなければならぬ。第九条のお陰で、志願する者は別として兵役に従事しないで済む。九条は有難い。

惹し、深川越中島の“警備予備隊”から始まって（昭和二十五年）それが自衛隊になり、いまの祖国を護る体制に移行していることを銘記したい。越中島、商船大学が戦前から在った。吾らが母校「第三商業」も並んでいる。今や三商第一期生は九十・八十八才。吾ら第十期生は八十八・八十七才の高齢に達している。今の「三商生」は孫だ。

戦後、「六三三制」に改革されて原則として“男女共学”の世となり「教育基本法」が制定されて「日本」は大きく変わった。筆者はこの戦後、新日本の“教育制度”を遵守して民主日本の“人間造り”に精勵した。どの程度の成果が挙げられたかは自分で解らないが一つのデータとして昭和六十年三月に定年退職した

が、退職時、都の優良教職員として都の教育成果の向上に寄与したとして都知事及び文部省から表彰状を頂いた。喜んで良いのか、悲しんでよいのか分からぬ。何れにしても昭和は六十二年続き六十四年目の平成元年から早くも十五年を経過したのである。たまたま筆者は“教育界”に身を投じたが実業界や政界、その他自家営業組の担任に従事するなど、多様な実績を挙げている後輩教師の労を多としたい。「十期会」はこの程、休息する事で一件落着いているが、勿論、消滅した訳ではない。“同窓会”として三商第十期は永久に不滅であり、世話役を誰が引き受けるかはまだハッキリとはしていないが、さし当って三商校舎の西隣りに近接して居住し、且つ旧職員の経歴を持つ筆者・竹田一郎が理事又は評議員の肩書きは別として“十期会”の面倒を見、且つ同期生の連絡を斡旋する労を取らなければならぬ。最後の“ひとり”がこの世を去る迄、事実上の「十期会」は存在する。誰がその「ひとり」になるかは今は誰もわからない。

一書籍紙を使用、装幀もボール紙の芯に布張りという上製本で永久保存可能、総紙数二九〇頁、コスト切詰め、担当世話人の努力に依り同期会当日の頒価は二〇〇〇円、郵送の場合は二五〇〇円とした。再販はない。記念すべき刊行物で、竹田一郎の手に依つて三商校長室と、同図書館事務室へ納入することにして過日、無事に済んで、現校長先生と司書教諭は“こんな立派な記録をお納め頂いて有難いことです、立派な記録を第三商業学校の貴重な記録です”とお二人とも喜んで下さつて筆者も面目を施した。今村・清田両先生がご存命なればどんなにかお喜びなされたことだろう。

さて、「十期会」の前途は如何。何度も強調したが、今は草臥れを癒すために休息中だが、お互いに年令も八十才に近い身、子供や孫たちの面倒もあつて、バスで送り迎えてくれるデイサービスなどの“老人介護”に少なくとも週二回は自発的な“介護団体”の奉仕を受ける仲間も少なくないであろう。

拙宅にも、娘二人が申請して、江東区のケアマネージャーが三回も拙宅に来て拙者の言うこと、為すことについて判定を降し少なくとも“デイサービス”をお受けになされた方がいでしょうと奨めて行つたから、「介護二級」の判定が降る見込みである。妻の方は“要支援”とあつてこの方への働きはいまのところない。近く結論が出されると、筆者は週二回、月曜日と水曜日の週二回バスの送り迎えを受けて古石場にある高齢者

在宅サービスセンターに通うことになりそうである。朝風呂に入れてくれるし、手際よく味の良い昼食とお八つがつくし、午前、午後は簡単な手作業にやる細工、工芸があり、散歩もあつて楽しいらしいが、どうなることやら当局からの通告を待つて判定に必ずしもにしたいが、楽しまか、悲しまか、今の筆者には分からぬ、これは十期生の吾ら同期生たちが恐らく大かた少なかれ直面している課題であろうと考えてわざわざ紙面を割いたのである。さて、地球は永遠にある。余程の“天変地異”のない限り吾が家の裏手にある隅田川の洋々たる流れと晴海運河の清流は東京湾に注ぐ。筆者は、歩行や不自由な両足のナンギを引きずつて、朝夕二回、三商校舎の東側の豊洲橋の橋上まで散歩に行き、遠く西の彼方に輝やく富士山の山容を仰ぐことを楽しみにしている。心が癒されるのである。杖つき乍ら。 ※ ※ ※ わが母校「都立第三商業」は平成十五年三月、第 回卒業生を世に送つた。卒業生数は男子 名、女子 名（丹念にその数を調べて貰つてもいいが、今や男女共学で、現在の在校生は無論、可愛い孫たちである）。 一商から五商迄が、戦前、有名校が全部、その名を改称したのに一から五までを護り抜いたのは俺の方だと心強く宣言したのは二代校長 福岡県人・今村直人先生その人である。 今では解消したが多磨墓地への墓参会は昭和 年まで古い卒業生た

(昭和十二年四月新入生三百三十八名、昭和十六年十二月卒業生三百人)

<p>昭和十五年第四年次</p> <p>A 木村 秀夫 (五月九日以後 清田 榮一) B 清田 榮一 (五月九日以後 後藤 利正) C 垣本 清吉 D 家久 甫 E 笹岡 恒三 (例年“萬代”に出席されている) F 木村 與吉</p> <p>〔戦火は拡大していったが日本国内はまだ冷静であった。〕</p>		<p>五年間担任先生</p> <p>昭和十二年第一次</p> <p>A 佐藤勝太郎 B 齊藤 義繼 C 千葉 義美 D 高橋 昇一 E 菊池 逸郎 F 仙波 直心 市川任太郎</p> <p>〔七月七日、支那事変起る〕</p>		<p>昭和十三年二月二十七日</p> <p>吉沢 徹校長死去 (六十六才)</p> <p>昭和十三年第二次</p> <p>A 池永新太郎 B 田中 尚 C 山本 友博 D 家久 甫 E 甲斐 兼蔵 F 仙波 直心 市川任太郎</p> <p>〔戦火、中国全土に拡大〕</p>		<p>昭和十四年四月一日</p> <p>今村 直人校長着任 (京都市立第二商業学校長から着任)</p> <p>昭和十四年第三次</p> <p>A 齊藤 義繼 B 柏 辰正 (三学期辞任) 後任 油井 利喜之助 C 清田 榮一 D 佐藤 義美 (詩人・童謡作家) E 垣本 清吉 F 市川任太郎</p> <p>〔ドイツ、ポーランドに宣戦布告、第二次世界大戦となった。〕</p>		<p>昭和十六年第四年次</p> <p>A 清田 榮一 (学年主任) B 丸山 義雄 (後年戦死) C 井上 速雄 (昨年“萬代”に出席された) D 北古賀親芳 E 常名鋒次郎 F 木村 與吉</p> <p>〔十二月八日、日本、米英蘭に宣戦布告。学校中、この日は授業にならなかつた。二十八日、三ヶ月繰り上げ卒業となった。〕</p>	
---	--	--	--	--	--	---	--	--	--

ちに依つて毎年行なわれ、墓参会会長は外ならぬ清田榮一先生であつた。墓参会も古き佳き思い出となつてしまつた。

※ ※ ※

「都立三商十期生会報」の大冊は本当に良く出来ていて、読んでいて飽きない出来栄であり手応えがズシリ。亡くなつた同期生に見せたい。装幀もよく、持ってみて手応えがあり、黒表紙にしたのも、見識がある。出来れば、各号の編集中の裏話も欲しかったが、こんどの合本は今回の五月二十三日の「十期会」の話が出てからまとまつたもので、これは仕方のないところである。ただ一つ、惜しむらくは、筆者なら合本にするという話を聞いていれば提案した筈なのだが……その前提として次の三

項目にまず触れておきたい。

①昭和十二年四月、第十期生入学生志願者は二百五十名五クラスの定員のところ、千名になんなんとして予想を遙かに超えた。時の校長、吉沢徹先生(明治 年生れ、長野県人、“曲川”と号し、この年七月七日の蘆溝橋事件から始まる日支事変を予言した)。「第二本科」を創設し、学校を離れて静かな市川市の“環山荘”で授業を行うなど新機軸が提案された。担任も二人いて市川任太郎先生と仙波直心先生だつた。「第二本科」は三年次の昭和十四年、第一本科二百五十名に吸収され、為に昭和十六年十二月卒業の際の十期生は卒業生三百名となつたのである。そしてあらたに三商には、実質的な夜間授業をおこなう「夜間部」が実現した。

川南小学校(筆者の母校)から新井康政がこの時入学して来た。

②無論、この当時いまのような“学区制”などなく、全都どこからでも、また、千葉県、埼玉県、神奈川県下からも通学生があつた。市川・船橋からの通学生が最も多かつたのは言うまでもない。深川の交通不便な辺境地まで、みな、よく熱心に通学してきたものである。小名木川を船で西進し、扇橋から市電で通学した先輩もいる。

③日支事変が始まつて日本は戦時体制に入り、昭和二十年の八月、終戦(日本敗北)迄の間の物資不足、食糧事情に悩まされた上、衣食住全般に亘つて困難、耐乏を強いられ、何もかも配給制になつたのである。今にして当時の事情をまざまざと思

い起す。惜しむらくはこの立派な「十期生会報」の中で、抜けてしまつたというか、合本にするとき、誰かが気がついていれば良かったと思うが、昭和十二年四月入学(一年)から、昭和十六年十二月(三ヶ月繰り上げ卒業まで)この間の全クラス担任の先生方のお名前が欠けているというところである。それが惜しい。次に、客年次毎の担任の先生方のお名前を挙げておく。学年付きの先生方がいたかどうか、副担任先生が配属されていたかどうかは、今となってはわからない。吉沢校長亡きあと、後任校長の選考に当局は随分苦労して、一ヶ月以上かかつて漸く人選した。

転出・退職者等

職名	担当	氏名	転出先	在籍期間
教諭	社会	池澤 淳子	足立 東	6
教諭	保健体育	岡松 典子	飛鳥 囑託	6
教諭	保健体育	長江 誠	中央卸売市場	9
教諭	英語	井原 聡子	篠崎	4
教諭	商業	藤村 學子	足立 新田	8
教諭	商業	新堀 政子	上野 忍岡	8
教諭	商業	田村 成秀	荒川 商業	4
教諭	商業	青島 信弘	退職	10
教諭	商業	土谷 武	第四 商業	8
教諭	商業	佐々木 勇一	葛飾 商業	9
事務	事務	甘利 喜裕	江戸川 養護	3
事務	事務	古久保 利江	白鷺 養護	5
事務	司書	齊藤 禎子	墨田 川	7
事務	技能II	鈴木 美保	九段	1
事務	嘱託技能	黒澤 八千代	墨田 養護	1

転入・採用者等

職名	担当	氏名	前任校
教諭	社会	高橋 五郎	大森 東
教諭	保健体育	大羽 絹枝	上野 元
教諭	保健体育	茂呂 貞史	水
教諭	英語	岩倉 光博	
教諭	商業	藤代 香織	台東 商業
教諭	商業	藤井 光太郎	台五 商業
教諭	商業	松村 妙子	桜水 商業
教諭	商業	茂木 里美	赤羽 商業
教諭	商業	森田 秀勝	葛飾 商業
事務	事務	高畑 貴子	墨田 川
事務	事務	高畑 貴子	墨田 川
事務	嘱託技能	羽生 亀一郎	広
事務	嘱託司書	竹下 捷	文京小日向町小

三商OBウォーキング会のご案内

申込先 〒133-0056 江戸川区南小岩7-38-11
 中野 貞三
 TEL 03-3658-6341
 FAX 03-3658-6340
 申込みがあれば必ず返信いたします。

三商クラブOB交流会

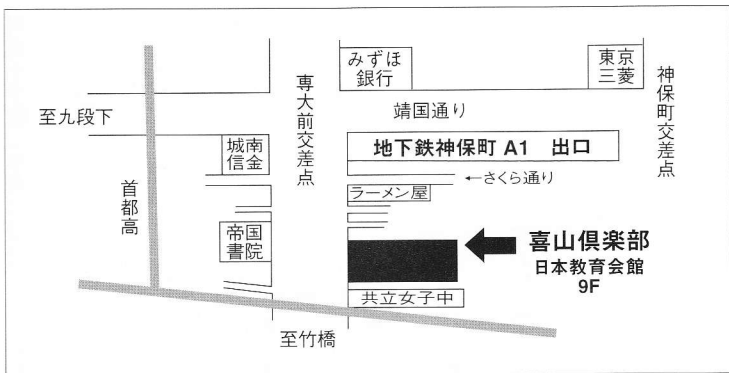
日 時 平成15年11月15日 (土) 午後6時より
 場 所 千代田区一ツ橋2-6-2 日本教育会館内9F
 会 費 ¥5,000 料理着席式 飲み放題
 対 象 三水会、木樺会、三商会計人会等
 クラブ活動OB会、同窓会役員
 連絡先 千葉市美浜区磯辺3-37-8
 TEL&FAX 043-278-0502 鬼沢 好男

校歌祭のご案内

日 時 平成15年10月4日 (土) 12時集合
 場 所 日比谷高校「星陵会館」
 1F受付のあと 練習場所へ
 出演時間 12:42~12:54予定
 服 装 紺系 ネクタイ着用
 終了後 銀座インズII 2F TEL 03-3561-3427
 アサヒスーパードライ有楽町店で
 反省会 会費 参千円

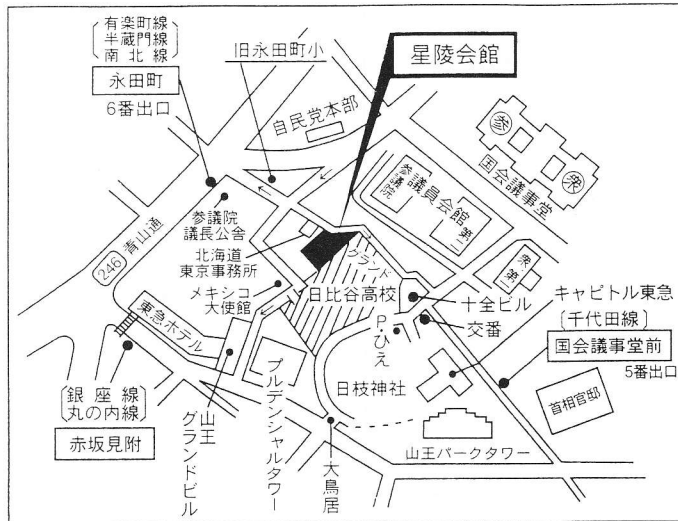
リハーサル

と き 9月20日 (土) 午後5時~7時30分
 と ころ 日本教育会館内9F
 リンケージルーム使用
 ビール、お酒、料理 レストラン喜山(きざん)
 会 費 ¥2,000
 校歌、応援歌練習
 交 通
 星 陵 会 館 千代田区永田町2-16-2 地下鉄溜池山王駅
 日本教育会館 千代田区一ツ橋2-6-2 神保町駅



星陵会館のご案内

☆交通(地下鉄)のご案内
 有楽町線、半蔵門線、南北線 永田町駅下車 6番出口…徒歩3分
 千代田線 国会議事堂前駅下車 5番出口…徒歩5分
 南北線 溜池山王駅下車 (国会議事堂前駅 5番出口)…徒歩5分
 銀座線、丸の内線 赤坂見附駅下車…徒歩6分



財団法人 **星 陵 会** △駐車場はございません。
 車での来館はご遠慮下さい。
 (都立日比谷高等学校隣)
 〒100-0014
 東京都千代田区永田町2-16-2
 TEL: 03 (3581) 5650
 FAX: 03 (3581) 1960
 URL: <http://www.seiryokai.org>

平成14年度同窓会収支決算書

(自 平成14年4月1日 至 平成15年3月31日)

収入の部

前年度繰越金	9,154,604
会 費 (7,000×168人)-手数料	1,175,160
総 会 費 (5,000×57人)	285,000
利 息 (普通預金)	249
運営協賛金 (平成12年度~平成14年度-手数料)	1,225,040
雑 収 入 (3学年解約利息寄付等)	10,233
合 計	11,850,286

支出の部

理事・評議委員会	91,913
同 窓 会 総 会	656,727
校 歌 祭	163,642
同 窓 会 報	229,950
慶 弔 費	116,605
事務局運営費	100,000
協議会参加補助	81,030
通 信 費	164,930
次年度繰越金 (運営協賛金繰越金1,225,040含)	10,245,489
合 計	11,850,286

監査の結果公正妥当であることを認めます。

平成15年4月16日

監 事 辻 井 正 巳
 土 方 敏 之